Cisco DNA Center 不正管理および aWIPS アプリケーション リリース 2.2.2 クイックスタートガイド

初版：2021 年 4 月 23 日

最終更新：2023 年 6 月 26 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ **www.cisco.com/jp/go/safety_warning/** ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED “AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2021–2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

第 1 章 **Cisco DNA Center 不正管理および aWIPS アプリケーション 1**

不正管理および aWIPS アプリケーションの概要 1

不正管理について 2

Advanced Wireless Intrusion Prevention System について 4

拡張性に関する情報 8

基本的な設定のワークフロー 8

関連資料 10

第 2 章 **Cisco DNA Center の不正管理アプリケーションパッケージのインストール 11**

アプリケーション管理 11

不正および aWIPS アプリケーションパッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center 11

第 3 章 **不正および aWIPS ダッシュボードのモニタリング 15**

不正管理および aWIPS アプリケーションへのアクセス 15

不正管理および aWIPS ダッシュボードのモニタリング 15

脅威 360° ビューから不正 AP および不正クライアントの詳細を取得する 19

第 4 章 **不正管理および aWIPS ワークフローの構築と展開 23**

不正管理と aWIPS ワークフローの概要 23

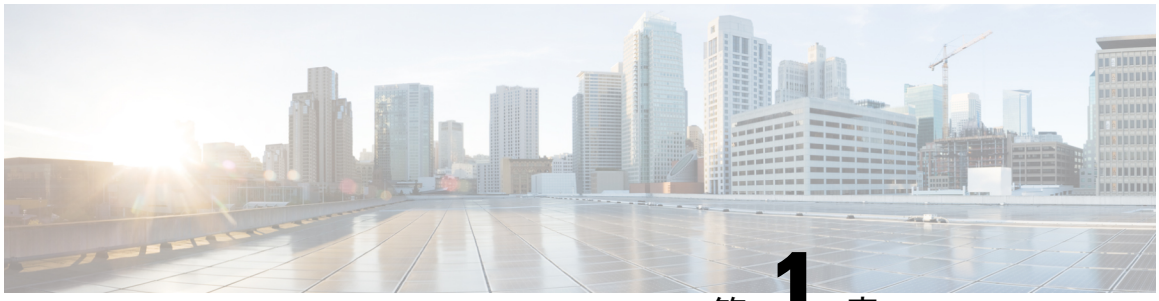
不正管理と aWIPS ワークフローの設定 23

第 5 章 **有線およびワイヤレスネットワークでの不正 AP の封じ込め 27**

不正 AP の封じ込めの概要 27

有線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め 28
無線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め 29
Cisco 不正 AP 封じ込めアクションの互換性マトリックス 32
不正 AP の封じ込めのタスクと監査ログの表示 33

第 6 章 不正 AP のカスタム分類 35
許可リストワークフローについて 35
不正管理と aWIPS ワークフローの設定 36
カスタム不正ルールの作成について 38
不正ルールの編集 38
不正ルールの削除 38
カスタム不正ルールの作成 39
不正ルールプロファイルについて 40
不正ルールプロファイルの編集 41
不正ルールプロファイルの削除 41
不正ルールプロファイルの作成 42
許可されたアクセスポイントリストの表示 43
許可されたベンダーリストについて 43
ベンダールールリスト情報の表示 43
ベンダールールの編集 44
ベンダールールの削除 44
許可されたベンダーのリストの作成 45



第 1 章

Cisco DNA Center 不正管理および aWIPS アプリケーション

- 不正管理および aWIPS アプリケーションの概要 （1 ページ）
- 不正管理について （2 ページ）
- Advanced Wireless Intrusion Prevention System について （4 ページ）
- 拡張性に関する情報 （8 ページ）
- 基本的な設定のワークフロー （8 ページ）
- 関連資料 （10 ページ）

不正管理および aWIPS アプリケーションの概要

（注） Cisco DNA Center の以前のバージョンでは、不正管理機能はデバイスの可制御性の一部としてプロビジョニングされていました。Cisco DNA Center のアップグレード後、プロビジョニング済みの不正管理サブスクリプションは、以前に検出されたシスコ ワイヤレス コントローラから自動的には削除されません。新たに検出されたワイヤレスコントローラで、不正管理の検出が不定期に報告される場合があります。

不正管理アプリケーションは、Cisco DNA Centerにインストールできるオプションのパッケージです。不正管理アプリケーションは、Cisco DNA Center 内で動作し、不正アクセスポイントからの脅威をモニタするのに役立ちます。Cisco DNA アシュアランス GUI Cisco DNA Centerでは、のダッシュボードとして不正管理機能にアクセスできます。

Cisco DNA Center には Cisco 適応型ワイヤレス侵入防御システム（aWIPS）が統合されているため、不正管理および aWIPS ダッシュボードで aWIPS シグニチャをモニタできます。

このガイドでは、Cisco DNA Center で不正および aWIPS アプリケーションパッケージをアクティブ化する方法について説明します。また、前提条件と設定、不正管理および aWIPS ダッシュボードのモニタリング方法、重要な注意事項と制約事項も示します。

不正管理アプリケーションは、Cisco AireOS リリース 8.8.111.0 以降を実行する次の Cisco AireOS コントローラモデルをサポートしています。

- Cisco 3504 ワイヤレス コントローラ
- Cisco 5520 ワイヤレス コントローラ
- Cisco 8540 ワイヤレス コントローラ
- Cisco Mobility Express

不正管理アプリケーションをサポートする Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ のモデルは次のとおりです。

- Catalyst 9300 シリーズ スイッチ用 Cisco Catalyst 9800 組み込みワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-40 ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-80 ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-CL Cloud ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-L ワイヤレスコントローラ
- Cisco Embedded Wireless Controller on Catalyst Access Points

aWIPS は、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ リリース 17.1.x、17.2.x および 17.3.x Cisco Catalyst 9100 シリーズ アクセスポイント、Cisco 802.11ac Wave 2 Aironet アクセスポイントをサポートしています。

aWIPS アプリケーションをサポートする Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのモデルは次のとおりです。

- Catalyst 9300 シリーズ スイッチ用 Cisco Catalyst 9800 組み込みワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-40 ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-80 ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-CL Cloud ワイヤレス コントローラ
- Cisco Catalyst 9800-L ワイヤレスコントローラ
- Cisco Embedded Wireless Controller on Catalyst Access Points

不正管理について

Cisco DNA Center の不正管理アプリケーションは、脅威を検出して分類し、ネットワーク管理者、ネットワークオペレータ、およびセキュリティオペレータがネットワークの脅威をモニタできるようにします。Cisco DNA Center は、最も優先度の高い脅威を迅速に特定するのに役立ち、Cisco DNA アシュアランス内の [Rogue and aWIPS] ダッシュボードでこれらの脅威をモニタできます。

不正なデバイスとは、ネットワーク内で管理対象の AP によって検出される、未知（管理対象外）のアクセスポイントまたはクライアントのことです。不正 AP は、正規のクライアントを

ハイジャックすることによって、無線 LAN の動作を妨害する可能性があります。ハッカーは不正 AP を使用して、ユーザ名やパスワードなどの機密情報を取得できます。すると、ハッカーは一連の Clear To Send（CTS; クリア ツー センド）フレームを送信できるようになります。このアクションは、特定のクライアントに送信するように通知し、他のすべてのユーザに待機するように指示する AP を模倣します。その結果、正規のクライアントは、ネットワークリソースに接続できなくなります。したがって、無線 LAN サービスプロバイダーは、境域からの不正なアクセスポイントの締め出しに強い関心を持っています。

不正な AP は安価で簡単に利用できることから、企業の従業員は、IT 部門に報告して同意を得ることなく、認可されていない不正な AP を既存の LAN に接続し、アドホック無線ネットワークを確立することがあります。これらの不正な AP は、企業のファイアウォールの背後にあるネットワークポートに接続されているとき、重大なネットワークセキュリティ侵害につながるおそれがあります。通常、従業員は不正な AP のセキュリティ設定を有効にしないので、権限のないユーザがこの AP を使って、ネットワークトラフィックを傍受し、クライアントセッションをハイジャックすることは簡単です。さらに警戒すべきことは、無線ユーザはセキュリティで保護されていない AP の場所を頻繁に公表するため、企業のセキュリティが侵害される危険性も増大することです。

Cisco DNA Center は、すべての近隣の AP を継続的にモニタし、不正 AP に関する情報を自動的に検出して収集します。

Cisco DNA Center は、管理対象 AP から不正なイベントを受信すると、次のように反応します。

- 不明な AP が Cisco DNA Center によって管理されていない場合は、Cisco DNA Center によって不正分類ルールが適用されます。
- 不明な AP がネットワークと同じ SSID を使用していない場合は、Cisco DNA Center が、AP が企業の有線ネットワークに接続され、有線ネットワークに通じているかどうかを確認します。不正 AP が企業ネットワークのスイッチポートに物理的に接続されている場合、Cisco DNA Center は AP を**有線ネットワーク上の不正**として分類します。

  有線ネットワーク上の不正を検出するには、Cisco DNA Center で管理されているシスコスイッチが必要です。

（注） Cisco DNA Center により、有線ネットワーク上の不正でない AP が誤って有線ネットワーク上の不正として分類される場合があります。この誤った分類は、不正なクライアントが有線ネットワーク上の不正 AP から有線ネットワーク上の不正でない AP にローミングしている場合に発生します。新しい不正 AP の情報を含む新しい不正クライアントレポートが受信され、そのクライアントのホストエントリが、不正クライアント情報を削除する前に Cisco DNA Center で使用できるようになります。これは、不正なクライアントのスイッチポートの詳細がスイッチで削除され、Cisco DNA Center と同期されるまでに時間がかかるためです。そのため、クライアントがローミングする新しい不正 AP は、同期が発生する前に有線ネットワーク上の不正として分類されます。

- AP がCisco DNA Centerに対して不明で、ネットワークと同じ SSID を使用している場合、Cisco DNA Centerは AP を**ハニーポット**として分類します。

（注）
- 以前にハニーポットとして分類された検出された SSID は、バックアップには保持されません。したがって、復元操作の後、SSID はハニーポットとして分類されません。
- Cisco DNA Center でハニーポットとして分類された SSID は、ワイヤレスコントローラから削除されてもその分類のままになります。検出された SSID が Cisco DNA Center のバックアップの復元時に Cisco DNA Center で復元されなければ、ハニーポットの分類は行われません 。

- 不明な AP がネットワークと同じ SSID を使用しておらず、社内ネットワークに接続されていない場合、Cisco DNA Centerは、干渉が発生しているかどうかを確認します。存在する場合は、Cisco DNA Centerは AP を**干渉源**として分類し、不正な状態を**潜在的な脅威**としてマークします。この分類のしきい値レベルは -75 dBm で、それを超える場合にネットワーク上の干渉源として分類されます。
- 不明な AP がネットワークと同じ SSID を使用しておらず、社内ネットワークに接続されていない場合、Cisco DNA Center はその AP がネイバーであるかどうかを確認します。ネイバーである場合、 Cisco DNA Centerは AP を**ネイバー**として分類し、不正状態を**情報**としてマークします。この分類のしきい値レベルは -75 dBm で、それ以下の場合に不正 AP がネイバー AP として分類されます。

Advanced Wireless Intrusion Prevention System について

Cisco Advanced Wireless Intrusion Prevention System（aWIPS）は、ワイヤレス侵入の脅威を検出して軽減するメカニズムです。ワイヤレスの脅威検出およびパフォーマンスの管理のための高度な手法を使用します。APは脅威を検出し、アラームを生成します。この手法では、ネットワーク トラフィック分析、ネットワーク デバイス/トポロジに関する情報、シグニチャベースの技法、および異常検出を組み合わせることにより、非常に正確で全面的な無線の脅威防御を実現できます。

インフラストラクチャに完全に統合されたソリューションを採用して、有線ネットワークと無線ネットワークの両方で無線トラフィックを継続的に監視し、ネットワーク インテリジェンスを使用してさまざまなソースからの攻撃を分析することにより、損害または漏洩が発生する前に、攻撃を正確に特定し事前に防止することができます。

Cisco DNA Center には aWIPS の機能が統合されているため、aWIPS で WIPS のポリシーとアラームを設定およびモニタし、脅威を報告することができます。

aWIPS は次の機能をサポートしています。

- スタティックシグニチャ

- スタンドアロンシグニチャ検出
- アラーム
- コントローラおよび AP イメージに付属のスタティック シグニチャ ファイル

Cisco DNA Center では、さまざまなサービス妨害（DoS）攻撃を検出する次のシグニチャがサポートされています。

- **認証フラッド**：多数のクライアントステーションを偽装（MACアドレススプーフィング）して AP に認証要求を送信し、AP のクライアント ステート テーブル（アソシエーション テーブル）のフラッディングを引き起こします。ターゲット AP では、個々の認証要求を受け取るたびにアソシエーションテーブルに状態 1 のクライアント項目が作成されます。オープンシステム認証が使用されている AP は、認証成功フレームを戻し、クライアントを状態 2 にします。共有キー認証（SHA）が AP に使用されている場合、AP は攻撃者の模倣クライアントに認証チャレンジを送信しますが、これは応答せず、AP はクライアントを状態 1 に保ちます。これらのシナリオのいずれにおいても、AP には、状態 1 または状態 2 のいずれかの状態にある複数のクライアントが含まれ、AP アソシエーションテーブルがいっぱいになります。テーブルが上限に達すると、正規のクライアントがこの AP に対して認証およびアソシエートできなくなります。
- **アソシエーションフラッド**：AP に大量のスプーフィングされたクライアント アソシエーションを送り付け、AP のリソース（特にクライアント アソシエーション テーブル）を枯渇させます。攻撃者はこの脆弱性を利用して大量のクライアントをエミュレートし、多数のクライアントを作成して、ターゲット AP のクライアント アソシエーション テーブルのフラッディングを発生させます。クライアント アソシエーション テーブルがオーバーフローすると、正規のクライアントをアソシエートできなくなります。
- **CTS フラッド**：特定のデバイスが同じ無線周波数（RF）メディアを共有するワイヤレスデバイスにバルク Clear To Send（CTS）制御パケットを送信し、CTS フラッドが停止するまでワイヤレスデバイスによる RF メディアの使用をブロックします。
- **RTS フラッド**：特定のデバイスが AP にバルク RTS 制御パケットを送信してワイヤレス帯域幅をブロックし、その AP 上のクライアントのパフォーマンス障害を引き起こします。
- **ブロードキャストプローブ**：特定のデバイスがブロードキャストプローブ要求を使用して、管理対象 AP をフラッディングしようとします。
- **ディスアソシエーション フラッド**：AP からクライアントへのディスアソシエーション フレームをスプーフィングして AP を状態 2（未アソシエートまたは未認証）にします。クライアントアダプタ実装では、この攻撃はこのクライアントに対してワイヤレスサービスを妨害する点で効果的かつ即効性があります。通常、クライアント ステーションは攻撃者が新たなディスアソシエーション フレームを送り付けるまで、サービスを回復するために再アソシエートと再認証を行います。攻撃者は繰り返しディスアソシエーション フレームをスプーフし、クライアントを使用不能な状態にします。
- **ディスアソシエーション ブロードキャス**：特定のデバイスが関連付け解除ブロードキャストをトリガーして、すべてのクライアントを切断しようとすることです。

この攻撃では、AP からブロードキャストアドレス（すべてのクライアント）へのディスアソシエーション フレームをスプーフィングして AP のクライアントを状態 2（未アソシエートまたは未認証）にします。現在のクライアントアダプタの実装では、この形式の攻撃は、複数のクライアントに対するワイヤレスサービスを即座に中断します。通常、クライアント ステーションは攻撃者が新たなディスアソシエーション フレームを送り付けるまで、サービスを回復するために再アソシエートと再認証を行います。攻撃者は繰り返しディスアソシエーションフレームをスプーフし、すべてのクライアントを使用不能な状態にします。

- **認証解除フラッド**：AP からクライアント ユニキャスト アドレスへの認証解除フレームをスプーフィングして AP のクライアントを状態 1（未アソシエートまたは未認証）にします。現在のクライアントアダプタの実装では、この形式の攻撃はクライアントに対するワイヤレスサービスを即座に中断します。通常、クライアント ステーションは攻撃者が新たな認証解除フレームを送り付けるまで、サービスを回復するために再アソシエートと再認証を行います。攻撃者は繰り返し認証解除フレームをスプーフし、すべてのクライアントを使用不能な状態にします。

- **認証解除ブロードキャスト**：この DoS 攻撃では、AP からブロードキャストアドレスへの認証解除フレームをスプーフィングして AP のすべてのクライアントを状態 1（未アソシエートまたは未認証）にします。クライアントアダプタの実装では、この形式の攻撃は、複数のクライアントに対するワイヤレスサービスを即座に中断します。通常、クライアント ステーションは攻撃者が新たな認証解除フレームを送り付けるまで、サービスを回復するために再アソシエートと再認証を行います。

- **EAPOL ログオフフラッド**：特定のデバイスが、LAN 上で動作する拡張可能な認証プロトコル（EAPOL）ログオフパケットを送信しようとすることです。このパケットが WPA および WPA2 認証で使用され、サービス妨害が引き起こされます。

  EAPOL ログオフフレームは認証されないため、攻撃者はこのフレームをスプーフィングし、ユーザを AP からログオフさせることができます。これにより DoS 攻撃が成立します。クライアントが AP からログオフしたことは、クライアントが WLAN 経由で通信を試行するまでは明らかではありません。通常この妨害が検出されると、クライアントはワイヤレス接続を回復するため自動的に再アソシエートと認証を行います。攻撃者は、スプーフィングされた EAPOL-Logoff フレームを継続的に送信できます。

- **AirDrop セッション**：AirDrop セッション攻撃は、Apple 社の機能である AirDrop がファイル共有のためのピアツーピアリンクの設定に使用されている場合に発生します。この結果、WLAN 環境で未承認のピアツーピアネットワークが動的に作成されるため、セキュリティリスクが生じる可能性があります。

- **認証失敗フラッド**：認証失敗フラッド攻撃は、特定のデバイスが、有効なクライアントからスプーフィングされた無効な認証要求で AP をフラッディングしようとすると発生し、接続解除につながります。

- **ビーコンフラッド**：攻撃者が、有効な AP とステーション間の新しいアソシエーションを妨げることで、企業のインフラストラクチャ全体のワイヤレスアクティビティを阻害できる DoS 攻撃の形式。ビーコン フラッド攻撃では、ネットワークをアクティブに探しているステーションは、異なる MAC アドレスと SSID を使用して生成されたビーコンでネッ

トワークから攻撃されます。このフラッドによって、有効なクライアントは企業 AP によって送信されるビーコンを検出できなくなり、DoS 攻撃を受けることになります。

- **ブロック ACK フラッド**：攻撃者が 802.11n AP を妨害し、特定の有効な企業クライアントからフレームを受信できないようにする DoS 攻撃の形式。802.11n 規格の導入に伴い、クライアントがフレームの大きなブロックをセグメントに分割することなく、同時に送信することができるトランザクションメカニズムが導入されました。この交換を開始するために、クライアントは Add Block Add Acknowledgment（ADDBA）要求を AP に送信します。この要求には、送信されているブロックのサイズを AP に通知するためのシーケンス番号が含まれています。AP は指定されているシーケンス内のすべてのフレームを受け入れ（範囲外のフレームはすべてドロップし）、トランザクションが完了したら BlockACK メッセージをクライアントに送信します。
- **EAPOL-Start V1 フラッド**：攻撃者は AP の内部リソースを使い果たすために EAPOL-Start フレームを大量に送り付け、AP をダウンさせようとします。
- **ファジングビーコン**：無効なデータ、予期しないデータ、またはランダムなデータがビーコンに導入され、それらの変更されたフレームが空中にリプレイされます。このプロセスは接続先デバイスに、ドライバのクラッシュ、オペレーティングシステムのクラッシュ、スタックベースのオーバーフローなど予想外の動作を引き起こす場合があり、影響を受けたシステムで任意コードを実行できる状態にします。
- **ファジングプローブ要求**：無効な、予期しない、またはランダムなデータがプローブ要求に導入されます。その変更されたフレームが空中にリプレイされます。
- **ファジングプローブ応答**：無効な、予期しない、またはランダムなデータがプローブ応答に導入されます。その変更されたフレームが空中にリプレイされます。
- **無効な MAC OUI フレーム**：有効な OUI を持たないスプーフィングされた MAC アドレスが使用されます。
- **不正な形式の関連付け要求**：攻撃者が不正な形式の関連付け要求を送信します。その結果、DoS 攻撃につながる AP のバグがトリガーされる可能性があります。
- **不正な形式の認証**：攻撃者が不正な形式の認証フレームを送信し、ある場合は、一部のドライバの脆弱性が公開されます。
- **プローブ応答フラッド**：攻撃者がステーションを有効な企業 AP に関連付けられないようにする DoS の形式。一般的なワイヤレストランザクションでは、ステーションは AP と関連付けする場合、AP のネットワークに関する情報を取得するためにプローブ要求を送信します。その後、ステーションは AP からのプローブ応答フレームを待ちます。攻撃者は、無効なプローブ応答を環境に大量に送り付けることで、このプロセスを悪用し、ステーションが有効な AP からの応答を受信できないようにできます。結果として、そのステーションはワイヤレスネットワークに接続できなくなり、DoS 攻撃が開始されます。
- **PS ポールフラッド**：潜在的なハッカーによってワイヤレスクライアントのMACアドレスがスプーフィングされ、PS-Poll フレームのフラッドが送信されます。その後、AP からバッファされたデータフレームがワイヤレスクライアントに送信され、クライアントが省電力モードになっているために、データフレームが欠落することがあります。

- **再関連付け要求フラッド**：AP に大量のエミュレートおよびスプーフィングされたクライアント再関連付けを送り付け、AP のリソース（特にクライアント関連付けテーブル）を枯渇させる DoS 攻撃の形式。クライアント関連付けテーブルがオーバーフローすると、正規のクライアントを関連付けできなくなり、DoS 攻撃が成立します。
- **ターゲットの認証解除**：脅威のコンテキストを強化するために、攻撃の送信元と接続先の両方で可視化されます。
- **CTS 仮想キャリア検知攻撃**：802.11n AP の MAC アドレスが変更されたときの DoS 攻撃の形式。これにより、正規のユーザーへのチャネルアクセスを妨げることで、CTS フレームタイプの値をかなり長期間にすることができます。
- **RTS 仮想キャリア検知攻撃**：802.11n AP の MAC アドレスが変更されたときの DoS 攻撃の形式。これにより、正規のユーザーへのチャネルアクセスを妨げることで、送信要求（RTS）フレームタイプの値をかなり長期間にすることができます。

拡張性に関する情報

次の表に、サポートされる不正 AP および不正クライアントの数を Cisco DNA Center アプライアンスのバージョン別に示します。

表 *1*：サポートされている不正 *AP* および不正クライアントの数

Cisco DNA Center アプライアンス	サポートされる不正 AP の数	サポートされる不正クライアントの数	1 日あたりの aWIPS イベントの数
44 コアCisco DNA Centerアプライアンス	24000	32,000	20,000
56 コアCisco DNA Centerアプライアンス	24000	32,000	30,000
112 コアCisco DNA Centerアプライアンス	96,000	128,000	65,000

基本的な設定のワークフロー

ステップ 1 Cisco DNA Center をインストールします。

詳細については、*Cisco DNA Center* 設置ガイドを参照してください。

ステップ 2 [Rogue and aWIPS] アプリケーションパッケージをダウンロードしてインストールします。

詳細については、不正および aWIPS アプリケーションパッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center （11 ページ）を参照してください。

ステップ 3 不正管理および aWIPS アプリケーションが [Deployed] の状態になっていることを確認します。

確認するには、Cisco DNA Center のホームページで、**歯車**アイコン（⚙）をクリックし、**[System]** > **[Settings]** > **[Installed Apps]** の順に選択します。

ステップ 4 リリース 1.3.3.0 以降では、[Rogue and aWIPS] アプリケーションは **[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** ウィンドウで有効にする必要があります。

これにより、シスコ ワイヤレス コントローラとCisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの不正検出が有効になります。

[Rogue and aWIPS] アプリケーションにアクセスするには、Cisco DNA Centerにログインします。メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

ステップ 5 シスコ ワイヤレス コントローラのようなデバイスや AP を、ディスカバリ機能を使用して検出します。

サービスポート IP アドレスの代わりに管理 IP アドレスを使用してシスコ ワイヤレス コントローラ を検出します。

ステップ 6 検出されたデバイスが **[Device Inventory]** ウィンドウに表示されていることを確認します。

デバイスは到達可能で、[Device Inventory] ウィンドウで [Managed] 状態である必要があります。

ステップ 7 サイト、ビルディング、フロアを追加してネットワーク階層を設計すると、後で設計の設定や構成を適用する場所を簡単に特定できるようになります。

新しいネットワーク階層を作成できるほか、Cisco Prime Infrastructure に既存のネットワーク階層がある場合はその階層を Cisco DNA Center にインポートすることもできます。

ステップ 8 AP の位置情報を追加し、フロアマップに配置して、ヒートマップカバレッジを可視化します。

ステップ 9 （オプション）ネットワークでのユーザー認証に Cisco Identity Services Engine（ISE）を使用している場合、Cisco DNA アシュアランス を設定して Cisco ISE を統合できます。統合することで、Cisco DNA アシュアランスのユーザー名やオペレーティングシステムなど、有線クライアントの詳細な情報を参照できます。詳細については、『*Cisco DNA Assurance ユーザーガイド*』の「About Cisco ISE Configuration for Cisco DNA Center」のトピックを参照してください。

ステップ 10 （オプション）テレメトリを使用して Syslog、SNMP トラップ、Netflow コレクタサーバを設定します。詳細については、『*Cisco DNA Assurance ユーザーガイド*』の「Configure Syslog, SNMP Traps,NetFlow Collector Servers, and Wired Client Data Collection Using Telemetry」のトピックを参照してください。

ステップ 11 Cisco DNA アシュアランス アプリケーションの使用を開始します。

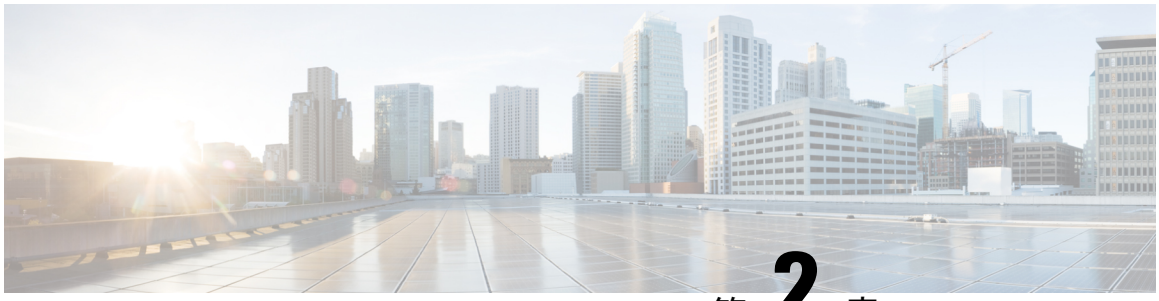
ステップ 12 （オプション）Cisco Connected Mobile experience （CMX）を Cisco DNA Center と統合して同期します。詳細については、『*Cisco DNA Assurance ユーザーガイド*』の「About Cisco Connected Mobile Experiences Integration」のトピックを参照してください。

X 座標と Y 座標が使用可能な場合は、AP の最も強力な信号強度、または Cisco CMX からの X および Y 座標情報の検出に応じて、フロアマップ上の特定の不正 AP の正確なロケーションの詳細を取得できます。

（注） Cisco CMX を Cisco DNA Center に統合していない場合、最も強力な RSSI で検出された不正 AP がサイトマップに表示されます。

関連資料

マニュアル	情報
Cisco DNA Center インストールガイド	Cisco DNA Center のインストールと設定（設置作業を含む）について。
Cisco DNA Center 管理者ガイド	ユーザアカウント、ロールベースアクセスコントロール（RBAC）スコープ、セキュリティ証明書、認証およびパスワードポリシー、およびグローバルディスカバリ設定について。 Cisco DNA Centerサービスのモニタリングと管理。 バックアップおよび復元の手順。
Cisco DNA Center ユーザガイド	Cisco DNA Center GUI とそのアプリケーションの使用。
Cisco DNA Assurance ユーザガイド	Cisco DNA アシュアランス GUI の使用。
Cisco DNA Center リリースノート	リリース情報 （新機能、未解決および解決済みのバグを含む）。
Cisco DNA Center プラットフォーム ユーザガイド	不正および aWIPS のレポート。
Cisco DNA Center プラットフォーム リリースノート	Cisco DNA Center プラットフォーム での不正および aWIPS パッケージの有効化。



第 2 章

Cisco DNA Center の不正管理アプリケーションパッケージのインストール

- アプリケーション管理 （11 ページ）
- 不正およびaWIPSアプリケーションパッケージのダウンロードとインストールCisco DNA Center （11 ページ）

アプリケーション管理

Cisco DNA Center はその多くの機能を、Cisco DNA Center コアインフラストラクチャとは別にパッケージ化された個別のアプリケーションとして扱います。ユーザは設定に応じて、必要なアプリケーションをインストールして実行し、使用していないアプリケーションをアンインストールできます。

メニューアイコン（☰）をクリックして、**[System]** > **[Software Updates]**。[**ソフトウェアアップデート（Software Updates）**] ウィンドウに表示されるアプリケーション パッケージの数とタイプは、Cisco DNA Center のバージョンおよびライセンスレベルによって異なります。使用可能なアプリケーションパッケージはすべて、現在インストールされているかどうかに関係なく表示されます。

パッケージの説明とそれが必要かどうかについては、[Software Updates] ウィンドウの [Updates] タブでそのパッケージの名前にカーソルを合わせてください。

不正およびaWIPSアプリケーションパッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center

始める前に

（注） SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザのみがこの手順を実行することができます。

不正管理および aWIPS アプリケーションは、デフォルトでは Cisco DNA Center にインストールされていません。不正管理および aWIPS アプリケーションパッケージを手動でダウンロードして別途インストールする必要があります。

不正管理には CiscoDNA Essentials ライセンスが必要であり、aWIPS には Cisco DNAAdvantage ライセンスが必要です。

アプリケーション管理手順は、[Software Updates] ウィンドウで実行できます。

1. Cisco DNA Center をインストールします。詳細については、*Cisco DNA Center* 設置ガイドを参照してください。
2. リリースノートに記載されているソフトウェア要件を確認します。詳細については、「関連資料 （10 ページ）」を参照してください。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[System]** > **[Software Updates]**。

[ソフトウェアの更新（Software Updates）] ウィンドウには、次のタブが含まれます。

- [Updates]：システムとアプリケーションの更新が表示されます。[System Update] では、インストールされているシステムのバージョンと、Cisco Cloud からダウンロードされ、利用可能なシステムの更新が表示されます。[Application Updates] では、Cisco Cloud からダウンロードおよびインストール可能で使用可能なアプリケーション、アプリケーションのサイズ、および適切なアクション（[Download]、[Install]、[Update]）が表示されます。パッケージにカーソルを合わせると、使用可能なバージョンと基本的な説明が表示されます。
- [Installed Apps]：インストールされているアプリケーションパッケージが示されます。

（注） [Software Updates] ウィンドウに移動すると、接続のチェックが実行され、ステータスが表示されます。接続の問題がある場合、[Software Updates] ウィンドウには新しい更新が表示されません。

ステップ 2 **不正および aWIPS** アプリケーションをダウンロードするには、**[Software Updates]** > **[Updates]** > **[Application Updates]** でそのアプリケーション名の横にある **[Install]** をクリックします。

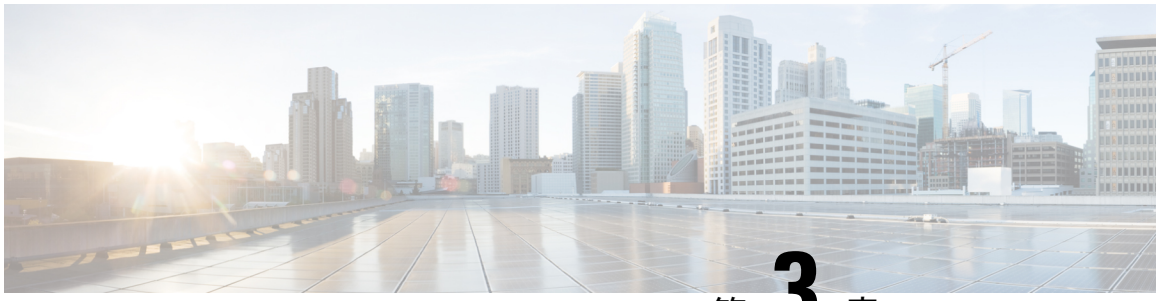
不正および aWIPS アプリケーションを更新するには、**[Software Updates]** > **[Updates]** > **[Application Updates]** でそのアプリケーション名の横にある **[Update]** をクリックします。

（注） [nstalled Apps] ウィンドウでアプリケーションのバージョンを確認して、アプリケーションがすべて更新されていることを確認します。

ステップ 3 パッケージをインストールした後、不正管理アプリケーションを有効にする必要があります。

a) メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** の順に選択して不正管理および aWIPS アプリケーションを有効にします。
b) [Rogue Management] ウィンドウの右上隅にある [Rogue] ドロップダウンリストから、[Enable] を選択します。

これにより、シスコ ワイヤレス コントローラ と Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ の不正 AP 検知が有効になります。



第 3 章

不正および aWIPS ダッシュボードのモニタリング

- 不正管理および aWIPS アプリケーションへのアクセス （15 ページ）
- 不正管理および aWIPS ダッシュボードのモニタリング （15 ページ）
- 脅威 360° ビューから不正 AP および不正クライアントの詳細を取得する （19 ページ）

不正管理および aWIPS アプリケーションへのアクセス

ステップ 1 不正管理および aWIPS アプリケーションにアクセスするには、Cisco DNA Center にログインします。

ステップ 2 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

[Rogue and aWIPS] ダッシュボードが表示されます。

（注） Cisco DNA アシュアランス アプリケーションを使用する前に、設定する必要があります。詳細については、基本的な設定のワークフロー （8 ページ）を参照してください。

不正管理および aWIPS ダッシュボードのモニタリング

ネットワークで検出されたすべての不正 AP と aWIPS シグニチャの詳細な脅威分析とグローバルビューを表示するには、不正管理および aWIPS ダッシュボードを使用します。また、不正管理および aWIPS ダッシュボードは、最も優先度の高い脅威についての洞察を提供し、迅速に識別できるようにします。不正管理アプリケーションは、ストリーミングテレメトリを使用して不正 AP のデータを取得します。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

[Rogue and aWIPS] ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、Cisco DNA Center に [Overview] ダッシュボードが表示されます。

（注） Cisco AireOS コントローラが必要な最小ソフトウェアバージョンを満たしていない場合は、ダッシュボードの上部に通知が表示されます。通知の [**Go To Devices**] をクリックして、サポートされているバージョンにアップグレードします。

ステップ 2 [Site] メニューで、[Global] をクリックします。

[Site Selector] スライドインペインが表示されます。

a) [Search Hierarchy] 検索バーにサイト名を入力するか、[Global] を展開してサイトを選択します。

（注）
- サイトに 254 を超えるサブサイトがある場合、そのサイトはデフォルトで無効になります。
- 内部にフロアを持たないサイト階層は、サイトセレクタにリストされません。

ステップ 3 シスコ ワイヤレス コントローラ および Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ で不正検出を有効にするには、[Actions] ドロップダウンリストで、**[Rogue]** > **[Enable]** の順に選択します。

不正管理機能は、Cisco DNA Center リリース 1.3.3.x から Cisco DNA Center リリース 2.2.1.0 以降への移行中にすでに有効になっている場合、デフォルトでは有効になっています。

ステップ 4 不正管理のアクションを一時的に無効にするには、**[Rogue]** > **[Disable]** の順に選択します。

ステップ 5 表示される **[Warning]** ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。

不正管理機能を無効にすると、ワイヤレスコントローラのデータは、不正管理機能が有効になるまで、Cisco DNA Centerにプッシュされません。

ステップ 6 **[Rogue]** > **[Status]** を選択して、不正構成ジョブのステータスを表示します。

ステップ 7 [All]、[Failure]、[Success]、または [Progress] の各タブをクリックして、不正な設定ステータスをフィルタリングします。

ワイヤレスコントローラ で不正管理の検出操作が正常に有効化されると、[Operation] 列に [Enable] と表示されます。

設定の変更が ワイヤレスコントローラ に正常にプッシュされると、[Status] 列に [Success] と表示されます。

ステップ 8 Cisco DNA Center で aWIPS のデータ収集を有効にするには、**[aWIPS]** > **[Enable]** の順に選択します。

Cisco DNA Center リリース 1.3.3.x から Cisco DNA Center リリース 2.2.1.0 以降に移行する場合は、Cisco DNA Center リリース 2.2.1.0 以降で aWIPS 機能を有効にする必要があります。

ステップ 9 aWIPS のアクションを一時的に無効にするには、**[aWIPS]** > **[Disable]** の順に選択します。

表示される **[Warning]** ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。

ステップ 10 aWIPS のサブスクリプション ステータスを確認するには、**[aWIPS]** > **[Status]** の順に選択します。

ステップ 11 [All]、[Failure]、[Success]、または [In Progress] の各タブをクリックして、aWIPS の設定ステータスをフィルタ処理します。

ワイヤレスコントローラ で aWIPS の検出操作が正常に有効化されると、[Operation] 列に [Enable] と表示されます。

設定の変更が ワイヤレスコントローラ に正常にプッシュされると、[Status] 列に [Success] と表示されます。

ステップ 12 次の情報については、[Threats] ダッシュレットを使用します。

- TOTAL ROGUE THREATS：不正な脅威の総数を表示します。
- TOTAL AWIPS THREATS：AWIPS 脅威の総数を表示します。
- TOTAL UNIQUE ROGUE CLIENTS： 固有の不正クライアントの総数を表示します。
- ROGUES CONTAINED：封じ込まれている不正の総数を表示します。

タイムラインスライダの下にある [Active High Threats] と [High Threats Over Time] のグラフに、該当する脅威の詳細が表示されます。

ステップ 13 [Active High Threats]、[Top Locations Affected] および [High Threats Over Time] のグラフには、デフォルトでは過去 3 時間に検出された不正 AP に関する情報が表示されます。グラフの情報は、時間を選択するドロップダウンリストで選択した時間間隔に基づきます。

- オプションは、[Last 3 Hours]、[Last 24 Hours]、および [Last 7 Days] です。

（注） 特定の時間範囲を選択するには、[Custom] を選択します。

ステップ 14 次の情報については、[High Threats Summary] ダッシュレットを使用します。

[High Threats Summary] ダッシュレット	
アイテム	**説明**
Active High Threats	ドーナツグラフの形式でアクティブな脅威レベルに関する情報を提供します。アクティブな高脅威を脅威の種類、[Top 10] または [All] でフィルタ処理できます。 ドーナツグラフの色付きの各スライスをクリックすると、脅威の表に脅威の詳細情報が表示されます。グラフにカーソルをホバーすると、アクティブで高レベルの脅威の数が表示されます。 [All] をクリックすると、脅威の種類と数が表形式で表示されます。
Top Locations Affected	選択したサイトごとに、高レベルの脅威の影響を受ける上位 5 つの場所を表示します。

ステップ 15 次の情報については、[High Threats Over Time] ダッシュレットを使用します。

[High Threats Over Time] ダッシュレット	
アイテム	説明
Threats Over Time	選択した期間に基づいて、経時的に高レベルの脅威に関する詳細情報を表示します。 [Total Active High Threat] の下にある使用可能な各脅威の種類をクリックすると、脅威情報がグラフビューに表示されます。 高い脅威偏差は、値から値の段階で測定されます。 • 緑色は脅威偏差が 0 未満であることを示します。 • オレンジ色は脅威偏差が 0 ～ 9 であることを示します。 • 赤色は脅威偏差が 10 以上であることを示します。 グラフの上にカーソルを合わせると、特定の時点で発生した高レベルの脅威の数が表示されます。
View Threats	[View Threats] をクリックして脅威テーブルを表示すると、高レベルの脅威のリストが表示されます。

ステップ 16 [Threats By Location] ダッシュレットを使用して、脅威に関する情報をマップビューで表示します。

ロケーションオプション	
アイテム	説明
 [Map View]	このトグルボタンをクリックすると、脅威の影響を受ける場所がマップビューに表示されます。 マップ内の目的の場所にカーソルをホバーすると、すべての脅威のレベルと数が表示されます。
 [List View]	このトグルボタンをクリックすると、脅威の影響を受ける場所に関する情報がリストビューに表示されます。

ステップ 17 [Threat Setting Summary] ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

[Threat Setting Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
Allowed AP List	許可された AP の数と設定されている脅威レベルに関する情報を表示します。 [Allowed Access Point List] の詳細については、[View Details] をクリックして [Allowed List] ウィンドウを表示します。.

[Threat Setting Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
Allowed Vendor List	許可されたベンダーの総数と設定されている脅威レベルに関する情報を表示します。 [Allowed Vendor List] の詳細については、[View Details] をクリックして [Allowed List] ウィンドウを表示します。
Rogue Rule	ルール、その条件タイプ、それに関連付けられたルールプロファイル、および脅威レベルに関する情報を表示します。 [Rogue Rules] の詳細については、[View Details] をクリックして [Rules] ウィンドウを表示します。

ステップ 18 （オプション）許可された AP リストの作成、許可されたベンダーリストの作成、不正ルールの作成などのワークフローを使用するには、直接リンクを提供する [Tips] ダッシュレットを使用します。

[View All] をクリックして、使用可能なすべてのワークフローを表示します。

脅威 360° ビューから不正 AP および不正クライアントの詳細を取得する

[Threat 360°] ビュー内で、フロアマップ上の特定の不正 AP または不正クライアントの場所の詳細をすばやく表示できます。

検出 AP の最も強力な信号強度に応じて、フロアマップ上の特定の不正 AP または不正クライアントの正確な場所の詳細を取得できます。Cisco コネクテッド モバイル エクスペリエンス（CMX）または Cisco DNA Spaces の統合により、不正 AP または不正クライアントの正確な場所を取得できます。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Threats]**。

ステップ 2 特定の不正 AP または不正クライアントに対して [Threat 360°] ビューを起動するには、[Threat] テーブルで対象の行をクリックします。

[Threat 360°] ペインが表示されます。

ペイン上部には、次の情報が表示されます。

- **不正 AP の MAC アドレス**
- **脅威レベル**
- **脅威のタイプ**
- **Status**

- **Vendor**
- **封じ込め**
- **メンバー数（Count）**
- **最後のレポート**

ペインの中央部分には、不正 AP またはフロアマップ上の脅威の推定位置が表示されます。

- サイトの詳細とフロア番号。
- フロアマップには、管理対象 AP の名前が表示されます。

ステップ 3 必要に応じて、次のタスクを実行します。

- フロアマップの右上隅にある アイコンをクリックすると、到達可能性ステータスとともに AP を管理する ワイヤレスコントローラ の IP アドレスが表示されます。
- フロアマップの右隅にある アイコンをクリックして、場所を拡大します。ズームレベルは画像の解像度によって異なります。高解像度の画像の場合、より高倍率のズームレベルを使用できます。各ズームレベルはさまざまなスケールで表示される各種スタイルマップで構成されていて、対応する詳細が表示されます。マップの中にはスケールを小さくしても大きくしても同じ状態のマップもあります。
- アイコンをクリックすると、広範囲のマップが表示されます。
- アイコンをクリックすると、マップアイコンの凡例が表示されます。

次の表に、フロアマップアイコンの説明を示します。

表 *2:* マップアイコンと説明

フロアマップアイコン	説明
[デバイス （Devices）]	
	アクセス ポイント（Access Point）
	センサー
	不正 AP（Rogue AP）
	マーカー
	計画済み AP

フロアマップアイコン	説明
	スイッチ
	Interferer
	クライアント
	Rogue Client
	AP の報告
	検出 AP
正常性スコアの平均	
	正常性スコア：8 ～ 10
	正常性スコア：4 ～ 7
	正常性スコア：1 ～ 3
	正常性スコア：不明
AP ステータス	
	センサーのカバー内
	センサーのカバー外

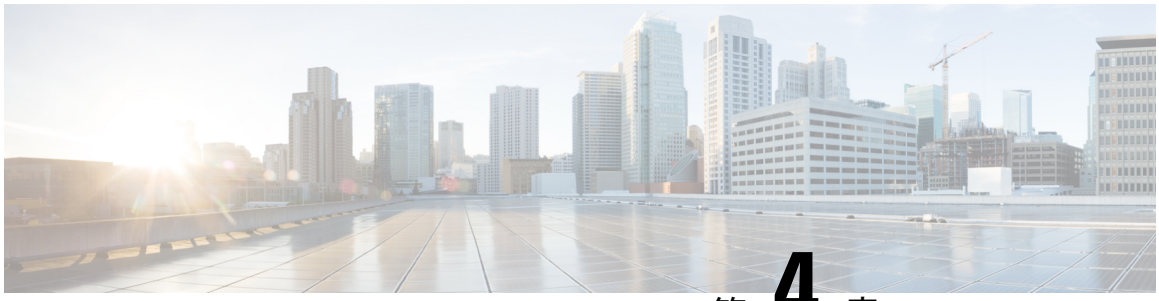
ステップ 4 ペインの下部領域では、次のタスクを実行できます。

- [Switch Port Detail] タブをクリックすると、**ホスト Mac**、**デバイス名**、**デバイス IP**、**インターフェイス名**、**最終更新日**、**ポートモード**、**管理ステータス**などの情報を含む不正なワイヤに関する詳細を取得できます。

（注）
- [Admin Status] 列には、インターフェイスのステータスが [UP] または [DOWN] として表示されます。
- [Port Mode] 列には、インターフェイスモードが [ACCESS] または [TRUNK] として表示されます。

（注）　シスコのスイッチは、有線ネットワーク上の不正の検出に必要です。

- [Detections] タブをクリックすると、[Detecting AP]、[Detecting AP Site]、[Adhoc]、[Rogue SSID]、[RSSI (dBM)]、[Channels]、[Radio Type]、[SNR]、[State]、[Last Updated] などの情報が表示されます。
- テーブルの左端にある **[フィルタ（Filter）]**（ ） アイコンをクリックして、**[Rogue SSID]**、**[RSSI]**、**[Radio Type]**、**[Security]**、**[SNR]** に基づいて検索結果を絞り込むことができます。
- [Export] アイコンをクリックして、システムに保存します。
- [Clients] タブをクリックすると、不正 AP に関連付けられているクライアントに関する、[MAC Address]、[Gateway Mac]、[Rogue AP Mac]、[IP Address]、および [Last Heard] などの詳細情報が表示されます。
- テーブルの左端にある **[Filter]**（ ） アイコンをクリックして、検索条件に基づいて検索結果を絞り込むことができます。



第 4 章

不正管理および aWIPS ワークフローの構築と展開

- 不正管理と aWIPS ワークフローの概要 （23 ページ）
- 不正管理と aWIPS ワークフローの設定 （23 ページ）

不正管理と aWIPS ワークフローの概要

Cisco DNA Center 不正管理および aWIPS ワークフローを使用すると、許可リストに一括で移動する不正アクセスポイントの MAC アドレスを確認してマークを付け、選択したアクセスポイントの MAC アドレスの一括許可リストを処理できます。

不正管理および aWIPS ワークフローは、Cisco AireOS コントローラおよび Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラに関連付けられている AP をサポートします。

このワークフローでは、次の不正 AP タイプを許可リストに移動できます。

- Rogue on Wire
- ハニーポット
- Interferer
- Neighbor

このワークフローでは、次の不正 AP タイプを許可リストに移動することはできません。

- AP Impersonation
- Friendly

不正管理と aWIPS ワークフローの設定

この手順では、不正 AP の MAC アドレスを許可リストに一括で移動する方法を示します。これらのアドレスは、Cisco DNA Center で高脅威として報告しないアドレスです。

始める前に

次のタスクを実行するには、SUPER-ADMIN-ROLE または NETWORK-ADMIN-ROLE 権限が必要です。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**ワークフロー** > **不正管理と aWIPS ワークフローの設定**。

[Set up Rogue Management and aWIPS] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Let's Do it] をクリックします。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

[Bulk upload allowed access Points] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Search] フィールドでは、前のワークフローですでに追加されている MAC アドレスを検索できます。

[Export] をクリックし、許可リストをエクスポートします。

ステップ 4 サンプル CSV テンプレートファイルをダウンロードし、MAC アドレス、操作、およびカテゴリを手動で追加して、一括許可リストテンプレートを作成できます。[Download the sample CSV template from here] リンクをクリックします。

通知記号にカーソルを合わせると、許可されている MAC アドレス、操作、およびカテゴリの形式を表示できます。

ステップ 5 CSV ファイルをボックス領域にドラッグアンドドロップするか、[Choose a file] をクリックしてシステム上の CSV ファイルを参照します。CSV ファイルの最大サイズは 1.2 MB です。

（注） Cisco DNA Center で検証チェックが実行されます。アップロードされた CSV ファイルが次の要件を満たしていない場合、エラーメッセージが表示されます。

- MAC アドレスが有効な不正ポイント MAC アドレスではありません。
- すべての不正アクセスポイントの MAC アドレスがシステムにすでに存在しているか、または削除操作の対象となる不正アクセスポイントの MAC アドレスがありません。

緑色のチェックマークは、アップロードされた CSV ファイルの内容が有効であることを示します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Summary] ウィンドウの [Uploaded bulk allowed list MAC addresses] テーブルに、許可された MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの動作とアクションが表示されます。

- [All]：すべての MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの動作とアクションを一括して表示します。
- [Create]：作成された MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの操作とアクションをまとめて表示します。
- [Delete]：削除された MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの動作とアクションが一括して表示されます。

- [No Action]：すでに削除されている MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの操作とアクションが表示されます。

ステップ 8 [Continue to allowed list] をクリックし、後続の警告ポップアップウィンドウで [Yes] をクリックします。

タスク完了**[Allowed List Updated]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 [Go to Rogue and aWIPS Home Page] リンクをクリックします。

[Rogue and aWIPS] ダッシュボードが表示されます。

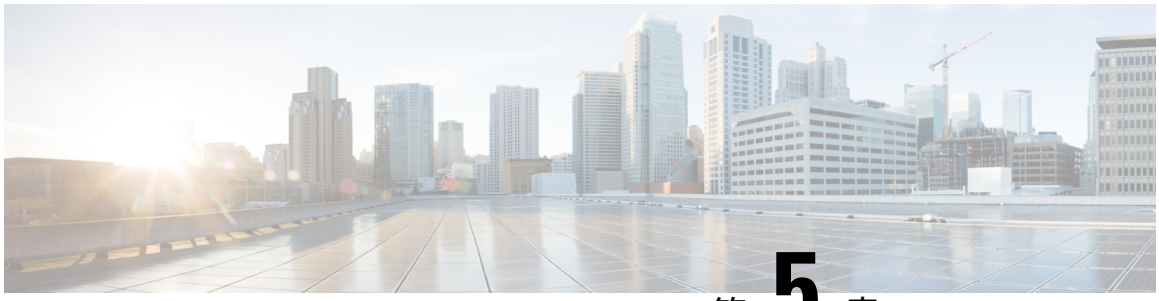
[Threat] テーブルで、Cisco DNA Center により指定した不正 AP MAC アドレスが [Type] 列の下の [Allowed List] に分類されます。

ステップ 10 許可リストに不正 AP MA Cアドレスを個別に追加または削除するには、[Threat MAC address] 列の下にリストされている不正 MAC アドレスをクリックします。

[Threat 360] ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 [Action] ドロップダウンリストをクリックし、[Add to Allowed list] を選択します。

許可リストから不正 AP MAC アドレスを個別に削除するには、[Action] ドロップダウンリストで [Remove from Allowed] リストを選択します。



第 5 章

有線およびワイヤレスネットワークでの不正 AP の封じ込め

- 不正 AP の封じ込めの概要 （27 ページ）
- 有線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め （28 ページ）
- 無線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め （29 ページ）
- Cisco 不正 AP 封じ込めアクションの互換性マトリックス （32 ページ）
- 不正 AP の封じ込めのタスクと監査ログの表示 （33 ページ）

不正 AP の封じ込めの概要

Cisco DNA Center 不正 AP 封じ込め機能には、有線および無線ネットワーク上の不正APが含まれます。有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込めの場合、Cisco DNA Center により、不正 AP が接続されている **ACCESS** モードのスイッチポート インターフェイスを **DOWN** 状態にします。**ワイヤレスネットワーク上の不正 AP 封じ込め**の場合、Cisco DNA Center は最も強力な検出ワイヤレスコントローラにワイヤレスネットワーク上の不正 BSSID の封じ込めを開始するように指示します。次に、ワイヤレスコントローラは、これらの BSSID の最強の検出 AP に、認証解除パケットをストリーミングして、不正 AP とその不正 AP のワイヤレスクライアント間の通信を中断するように指示します。

不正 AP 封じ込めは次のように分類されます。

- [Wired Rogue AP Containment]：Cisco DNA Center 不正な脅威のダッシュボードで [Rogue on Wire] として分類された不正 AP の MAC アドレス。
- [Wireless Rogue AP Containment]：Cisco DNA Center 不正な脅威のダッシュボードで [Honeypot]、[Interferer]、または[Neighbor] として分類された不正 AP MAC アドレス。

不正 AP の封じ込めは、Cisco AireOS コントローラおよび Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ でサポートされています。

（注） 封じ込めは、aWIPS 脅威ではサポートされていません。

有線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め

有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め機能を使用すると、Cisco DNA Center では不正 AP が物理的に接続されているスイッチの ACCESS モードインターフェイスをシャットダウンできます。 Cisco DNA Center では他のモードをシャットダウンするとネットワークがダウンする可能性があるため、ACCESS モードインターフェイスでのみ有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込めを実行します。

不正 AP が非 ACCESS モードのインターフェイスに接続されている場合、ネットワーク管理者は手動で、または CLI コマンドを使用してインターフェイスを含める必要があります。

この手順では、Cisco DNA Center の [Rogue on Wire] に分類された ACCESS モードインターフェイスで有線ネットワーク上の不正 AP の封じ込めを実行する方法について説明します。

始める前に

[Rogue and aWIPS] アプリケーションパッケージをダウンロードしてインストールします。詳細については、「不正およびaWIPS アプリケーションパッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center」を参照します。

この手順を実行するには、プロビジョニング API、スケジューラ API、および不正側から書き込み権限があることを確認してください。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Threats]**。

ステップ 2 [Threat MAC address] 列の [Rogue on Wire] に分類された不正 AP MAC アドレスをクリックします。

[Threat 360] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Action] ドロップダウンリストから、[Shutdown Switchport] を選択します。

警告ポップアップウィンドウに、対応するデバイスでシャットダウンする ACCESS モードインターフェイスのリストが表示されます。

（注） [Shutdown Switchport] オプションは、不正 AP MAC アドレスが [Rogue on Wire] としてマークされている場合にのみ、[Action] ドロップダウンリストに表示されます。詳細については、Cisco 不正 AP 封じ込めアクションの互換性マトリックス （32 ページ）を参照してください。

[Shutdown Switchport] アクションは元に戻せません。スイッチポートを手動で再起動する必要があります。

ステップ 4 警告ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。

[Threat 360] ウィンドウには、次のように有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込めステータスが表示されます。

- 青色のチェックマークが付いたバナーは、無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め要求が進行中であることを示します。

- 緑色のチェックマークが付いたバナーは、対応するインターフェイスで優先ネットワーク上の不正AP封じ込めが正常に開始されたことを示します。
- 赤いチェックマークが付いたバナーは、有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め要求が失敗したことを示します。

（注）
- 封じ込めが開始されると、インターフェイスの状態が [Rogue on Wire] から別の脅威分類タイプに更新されるまでに時間がかかります。
- [Rogue on Wire] 分類タイプは、同じ不正 AP の次の無線ネットワーク上の不正メッセージの到着時に別の分類タイプに変更されます。

不正 AP の MAC アドレスが [Rogue on Wire] に分類されているが、封じ込めを開始する ACCESS モードのインターフェイスがない場合、Cisco DNA Center により、[Action] ドロップダウンリストで [Shutdown Switchport] オプションが無効になります。

（注） 対応する不正 AP が [Rogue on Wire] 分類タイプである場合を除き、[Wireless Rogue AP Containment] は開始できません。詳細については、無線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め （29 ページ）を参照してください。

無線ネットワーク上の不正 AP の封じ込め

ネットワーク上の不正 AP 封じ込め機能により、Cisco DNA Center は不正 AP に接続されたワイヤレスクライアントを封じ込めることができます。

封じ込めは、不正な AP に接続されているクライアント間の通信を妨害するため、一部の国では違法です。 Cisco DNA Center は、無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込めを開始する際の法的影響について警告します。

この手順では、不正 AP に接続されているワイヤレスクライアントで無線ネットワーク上の不正 AP の封じ込めを開始および停止する方法について説明します。

始める前に

[Rogue and aWIPS] アプリケーションパッケージをダウンロードしてインストールします。詳細については、「不正およびaWIPSアプリケーションパッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center」を参照します。

この手順を実行するには、プロビジョニング API とスケジューラ API からの G の書き込み権限があることを確認します。

ステップ 1 メニューアイコン（≡）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

ステップ 2 [Rogue and aWIPS] ダッシュボードを下にスクロールして、[Threat] テーブルを表示します。

ステップ 3 無線ネットワーク上の不正 AP の封じ込めを実行するには、[Threat MAC address] 列の下に表示されている、[Honeypot]、[Interferer]、または [Neighbor] 分類タイプとしてマークされている不正 AP MAC アドレスをクリックします。

[Threat 360] ウィンドウが表示されます。

（注） 不正 AP MAC アドレスは、複数の不正 BSSID で構成されます。

ステップ 4 [Action] ドロップダウンリストをクリックし、[Stop] を選択します。

[Warning] ポップアップウィンドウが表示され、法的結果の警告とワイヤレスコントローラに含まれる不正な BSSID のリストが表示されます。

（注） 不正 AP の MAC アドレスが [Honeypot]、[Interferer]、または [Neighbor] 分類タイプとしてマークされている場合にのみ、[Start Containment] オプションが、[Action] ドロップダウンリストに表示されます。詳細については、「Cisco 不正 AP 封じ込めアクションの互換性マトリックス」を参照してください。

ステップ 5 警告ポップアップで、[Yes] をクリックします。

[Threat 360] ウィンドウには、次のように有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込めステータスが表示されます。

- 青色のチェックマークが付いたバナーは、無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め要求が進行中であることを示します。
- 緑のチェックマークが付いたバナーは、無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め要求が最も強力な検出 AP に正常に送信されたことを示します。RSSI 値に基づいて最も強力な検出 AP の横に赤い縦線が表示されます。
- 赤色のチェックマークが付いたバナーは、無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め要求が失敗したことを示します。

（注） 封じ込めが開始されると、[Containment Status] 列が別のワイヤレス封じ込めステータスで更新されるまでに時間がかかります。

[Threat 360] ウィンドウで、[Containment] 列の横にある [i] アイコンにカーソルを合わせます。**これは常に現在のワイヤレス封じ込めステータスを示しているという**ツールチップが表示されます。

ステップ 6 Cisco DNA Center では、Cisco DNA Assurance 内の [Rogue and aWIPS] ダッシュボードの脅威テーブルで、ワイヤレス不正 AP の**封じ込め**ステータスをモニタできます。

次の可能な値を表示するには、[Containment Status] 列の横にある [i] アイコンにカーソルを合わせます。

表 *3:* ワイヤレス封じ込めステータス可能な値

ワイヤレス封じ込めステータス	意味
Contained	ワイヤレスコントローラによってアクティブに封じ込められている不正 AP

Pending	ワイヤレスコントローラではこの不正は封じ込め保留状態に保持されています
開く	不正 AP は封じ込めらていません
Partial	不正 BSSID の一部は開いており、残りの部分は、封じ込められた状態または封じ込め保留状態になっています。

（注） ワイヤレス封じ込めステータスが [Partial] の不正 AP の場合、[Threat 360] ウィンドウの [Containment] 列の [Partial] 状態の横に [i] アイコンが表示されます。カーソルを [i] アイコンに合わせると、**不正 SSID** の現在のワイヤレス封じ込めステータスが表示されます。

ワイヤレスコントローラは、次の理由により、無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込めを保留状態に保つことができます。

- **リソースの停止**：不正な BSSID 封じ込め要求が送信されると、ワイヤレスコントローラは、不正な BSSID 封じ込めを[Containment] または [Containment Pending] のいずれかの状態にします。これは、クライアントがサービスを提供する無線の無線制限が 3 つ、モニタモードの無線制限が 6 つあるためです。無線が指定された制限を超えると、封じ込めのために次に送信された不正な BSSID は、いずれかの不正な BSSID が封じ込め状態から外れるまで、ワイヤレスコントローラによって保留状態になります。
- **保護された管理フレーム（PMF）**：ワイヤレスコントローラは、保護された管理フレーム（PMF）が不正 BSSID で有効であり、封じ込めステータスを保留状態に維持している限り、封じ込めを開始しません。PMF が無効になると、ワイヤレスコントローラが封じ込めを開始します。
- **動的周波数選択（DFS）**：ワイヤレスコントローラは封じ込めステータスを保留状態に維持し、動的周波数選択（DFS）チャネルでブロードキャストする場合、不正な BSSID を封じ込めようとしません。不正な BSSID が DFS チャネルから移動すると、ワイヤレスコントローラは封じ込めを開始します。

ステップ 7 **封じ込め済み**、**保留中**、または**部分的な**状態としてマークされた無線ネットワーク上の不正 AP のすべての不正 BSSID を**オープン状態**に戻すには、[Threat MAC address] 列の下にリストされている不正 AP MAC アドレスをクリックします。

[Threat 360] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 [Action] ドロップダウンをクリックし、[Stop Containment] を選択します。

（注） **封じ込めの停止**オプションは、無線ネットワーク上の不正 AP が**封じ込め済み**、**保留中**、または**部分的な**状態の場合にのみ、[Action]ドロップダウンメニューに表示されます。詳細については、「Cisco 不正 AP 封じ込めアクションの互換性マトリックス」を参照してください。

- [Threat 360] ウィンドウに青色のチェックマーク通知がバナーとして表示され、無線ネットワーク上の不正 AP で [Stop Containment] プロセスが進行中であることが示されます。
- [Threat 360] ウィンドウに緑色のチェックマーク通知がバナーとして表示され、無線ネットワーク上の不正 AP で [Stop Containment] プロセスが正常に開始されたことを示します。

Cisco 不正 AP 封じ込めアクションの互換性マトリックス

この表は、[Threat 360] ウィンドウでの不正 AP の現在の状態に対する不正 AP 封じ込めアクションの動作を示しています。

表 *4:* 不正 *AP* 封じ込めアクションの互換性マトリックス

不正 AP 脅威タイプ	無線ネットーワク上の不正 AP の現在の封じ込め状態	[Actions] ドロップダウンリストの [Start Containment] オプション	[Actions] ドロップダウンリストの [Stop Containment] オプション
ビーコン不正チャネル	開く	ディセーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
Beacon DS Attack	開く	ディセーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
AP Impersonation	開く	ディセーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
Rogue on Wire	Open/Contained/Pending/Partial	非表示 **スイッチポートのシャットダウン**が表示されています	非表示 **スイッチポートのシャットダウン**が表示されています
許可リスト	開く	ディセーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
ハニーポット	開く	イネーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
Interferer	開く	イネーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
Friendly	開く	ディセーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
Neighbor	開く	イネーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効

カスタムルール（高、潜在的）	開く	イネーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	有効
カスタムルール（情報）	開く	ディセーブル	ディセーブル
	包含/保留中/部分	無効	イネーブル

不正 AP の封じ込めのタスクと監査ログの表示

封じ込めに失敗した場合は、Cisco DNA Center では送信された有線および無線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め要求のタスクと監査ログを表示できます。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**アクティビティ**。

ステップ 2 [Activity] ウィンドウで、[Tasks] タブをクリックします。

ステップ 3 [Search] フィールドに **ROGUE** と入力するか、[ROGUE] を選択します。

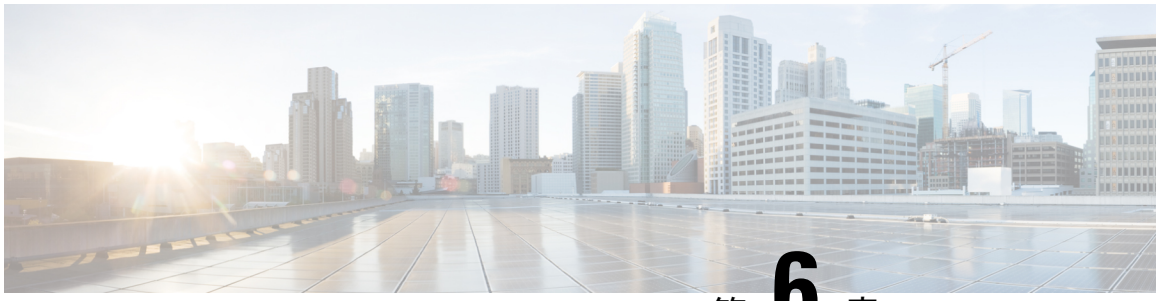
有線およびワイヤレスの不正 AP 封じ込めに関連する送信済み要求のリストが表示されます。

ステップ 4 対応する封じ込め要求をクリックします。

[ROGUE] ウィンドウが表示され、不正 AP 封じ込め操作の詳細、ステータス、日時が表示されます。

ステップ 5 [Audit Logs] タブをクリックして、不正 AP 封じ込めタイプと対応するデバイス IP アドレスを表示します。

（注）
- Cisco AireOS の場合、封じ込め要求の監査ログには CLI コマンドが表示されます。
- Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ の場合、封じ込め要求の監査ログには NETCONF 要求が表示されます。
- **有線ネットワーク上の不正 AP 封じ込め**の場合、監査ログには、スイッチポートをダウンさせるためにスイッチで実行された CLI コマンドが表示されます。



第 6 章

不正 AP のカスタム分類

- 許可リストワークフローについて （35 ページ）
- 不正管理と aWIPS ワークフローの設定 （36 ページ）
- カスタム不正ルールの作成について （38 ページ）
- 不正ルールの編集 （38 ページ）
- 不正ルールの削除 （38 ページ）
- カスタム不正ルールの作成 （39 ページ）
- 不正ルールプロファイルについて （40 ページ）
- 不正ルールプロファイルの編集 （41 ページ）
- 不正ルールプロファイルの削除 （41 ページ）
- 不正ルールプロファイルの作成 （42 ページ）
- 許可されたアクセスポイントリストの表示 （43 ページ）
- 許可されたベンダーリストについて （43 ページ）
- ベンダールールリスト情報の表示 （43 ページ）
- ベンダールールの編集 （44 ページ）
- ベンダールールの削除 （44 ページ）
- 許可されたベンダーのリストの作成 （45 ページ）

許可リストワークフローについて

Cisco DNA Center 不正管理および aWIPS ワークフローを使用すると、許可リストに一括で移動する不正アクセスポイントの MAC アドレスを確認してマークを付け、選択した AP の MAC アドレスの一括許可リストを処理できます。

不正管理および aWIPS ワークフローは、Cisco AireOS コントローラおよび Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラに関連付けられている AP をサポートします。

不正管理と aWIPS ワークフローの設定 （23 ページ） を使用して、次の不正 AP タイプを許可リストに移動できます。

- Rogue on Wire
- ハニーポット

- Interferer
- Neighbor

不正管理と aWIPS ワークフローの設定 （23 ページ） を使用して、次の不正 AP タイプを許可リストに移動できます。

- ビーコン不正チャネル
- Beacon DS Attack
- AP Impersonation
- Friendly

不正管理と aWIPS ワークフローの設定

この手順では、不正 AP の MAC アドレスを許可リストに一括で移動する方法を示します。これらのアドレスは、Cisco DNA Center で高脅威として報告しないアドレスです。

始める前に

次のタスクを実行するには、SUPER-ADMIN-ROLE または NETWORK-ADMIN-ROLE 権限が必要です。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**ワークフロー** > **不正管理と aWIPS ワークフローの設定**。

[Set up Rogue Management and aWIPS] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Let's Do it] をクリックします。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

[Bulk upload allowed access Points] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Search] フィールドでは、前のワークフローですでに追加されている MAC アドレスを検索できます。

[Export] をクリックし、許可リストをエクスポートします。

ステップ 4 サンプル CSV テンプレートファイルをダウンロードし、MAC アドレス、操作、およびカテゴリを手動で追加して、一括許可リストテンプレートを作成できます。[Download the sample CSV template from here] リンクをクリックします。

通知記号にカーソルを合わせると、許可されている MAC アドレス、操作、およびカテゴリの形式を表示できます。

ステップ 5 CSV ファイルをボックス領域にドラッグアンドドロップするか、[Choose a file] をクリックしてシステム上の CSV ファイルを参照します。CSV ファイルの最大サイズは 1.2 MB です。

（注） Cisco DNA Center で検証チェックが実行されます。アップロードされた CSV ファイルが次の要件を満たしていない場合、エラーメッセージが表示されます。

- MAC アドレスが有効な不正ポイント MAC アドレスではありません。
- すべての不正アクセスポイントの MAC アドレスがシステムにすでに存在しているか、または削除操作の対象となる不正アクセスポイントの MAC アドレスがありません。

緑色のチェックマークは、アップロードされた CSV ファイルの内容が有効であることを示します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Summary] ウィンドウの [Uploaded bulk allowed list MAC addresses] テーブルに、許可された MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの動作とアクションが表示されます。

- [All]：すべての MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの動作とアクションを一括して表示します。
- [Create]：作成された MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの操作とアクションをまとめて表示します。
- [Delete]：削除された MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの動作とアクションが一括して表示されます。
- [No Action]：すでに削除されている MAC アドレスのリスト、およびそれぞれの操作とアクションが表示されます。

ステップ 8 [Continue to allowed list] をクリックし、後続の警告ポップアップウィンドウで [Yes] をクリックします。

タスク完了**[Allowed List Updated]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 [Go to Rogue and aWIPS Home Page] リンクをクリックします。

[Rogue and aWIPS] ダッシュボードが表示されます。

[Threat] テーブルで、Cisco DNA Center により指定した不正 AP MAC アドレスが [Type] 列の下の [Allowed List] に分類されます。

ステップ 10 許可リストに不正 AP MA Cアドレスを個別に追加または削除するには、[Threat MAC address] 列の下にリストされている不正 MAC アドレスをクリックします。

[Threat 360] ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 [Action] ドロップダウンリストをクリックし、[Add to Allowed list] を選択します。

許可リストから不正 AP MAC アドレスを個別に削除するには、[Action] ドロップダウンリストで [Remove from Allowed] リストを選択します。

カスタム不正ルールの作成について

不正ルールは、異なるリスクプロファイルを持つ不正を簡単に分別して管理する方法です。不正ルールは設定が容易で、優先順位に従って適用されます。これにより、誤検出、干渉源のあるサイトのノイズ、アラートの数が減り、グローバルおよびサイトベースで組織のリスクプロファイルを調整できるようになります。

次の不正 AP タイプをカスタム分類タイプに移動できます。

- Interferer
- Neighbor

不正ルールの編集

ステップ 1 メニューアイコン（≡）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Rules]**。

ステップ 2 [Rogue Rules] テーブルで、編集するルール名をクリックします。

ステップ 3 表示される [Edit Rogue Rule] ウィンドウで、必要な変更を行ってから [Save] をクリックします。

（注） 古いルールに基づく以前の分類は、ルール条件が変更されても変更されません。変更は、新しいデータ分類にのみ影響します。

不正ルールの削除

ステップ 1 メニューアイコン（≡）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Rules]** タブ。

デフォルトでは、[Rogue Rules] タブが開きます。

ステップ 2 [Rogue Rules] テーブルで、削除する [Rule Name] をクリックし、[Delete] をクリックします。

（注） 削除する不正ルールがルールプロファイルで使用可能な唯一のルールである場合は、そのルールプロファイルも削除されます。

ステップ 3 表示される確認ダイアログボックスで [Delete] をクリックします。

ステップ 4 削除されたルールを表示するには、[Rogue Rules] テーブルの [Inactive] タブをクリックします。

カスタム不正ルールの作成

特定の条件を持つルールを作成し、そのルールをルールプロファイルに関連付けることができます。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Workflows]** > **[Create a Rogue Rule]**。

ステップ 2 [Create a Rogue Rule] ウィンドウで、[Get Started] をクリックします。

ステップ 3 [Rule Name] フィールドに、ルールの一意の名前を入力します。

新しい不正ルールの作成時、以前に削除された不正ルール名を入力することはできません。

ステップ 4 [Description] フィールドに、ルールの説明を入力します。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [Create Rogue Rule] ウィンドウで、脅威レベルを選択し、ルールの条件を追加します。

ステップ 7 [Threat Level] オプションボタンのいずれかをクリックして、脅威レベルをルールに追加します。使用可能なオプションは、[High]、[Potential]、または [Informational] です。

ステップ 8 [Match] ドロップダウンリストから、すべての条件に一致させるための [All]、またはいずれかの条件に一致させるための [Any] を選択します。

ステップ 9 [Add Condition] ドロップダウンリストから、ルール条件を選択します。

1 つのルールに複数の条件を追加できます。使用可能なルール条件は、[SSID]、[RSSI]、[Encryption Condition]、[Minimum Rogue Client Count] です。

ステップ 10 [Next] をクリックします。

ステップ 11 このルールを既存のルールプロファイルに割り当てるには、[Do you want to assign this rule to a rule profile?] ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。

不正ルールを作成しただけではエンティティとして機能しません。不正ルールは常にルールプロファイルに割り当てる必要があります。

ステップ 12 [Available rule profiles] テーブルで、プロファイル名の横にあるチェックボックスをオンにし、[Next] をクリックします。

1 つ以上のルールプロファイルを選択できます。1 つのルールプロファイルに割り当てることができるルールは 5 つまでです。

ステップ 13 表示される確認ダイアログボックスで [Proceed] をクリックします。

新しいルールは、最も低い優先順位に設定されます。ルールプロファイルを編集して優先順位を変更できます。

（注） 不正ルールの作成後、同じ不正ルール名を使用して別の不正ルールを作成することはできません。

ステップ 14 [Summary] ウィンドウで不正ルールの構成を確認します。

（注） 古いルールに基づく以前の分類は、新しいルール条件と一致しても変更されません。変更は、新しいデータ分類にのみ影響します。

ステップ 15 別の不正ルールを作成するには、[Create Another Rogue Rule] ボタンをクリックし、この手順のステップ 3 ー 13 を実行します。

ステップ 16 作成した不正ルールを表示するには、[View all Rogue Rules and Profiles] ボタンをクリックします。

[Rogue Rules] タブに、作成したすべての不正ルールが表示されます。

作成された不正ルールは、メニューアイコン（☰）をクリックし、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Rules]** > **[Rogue Rule]** を選択して表示することもできます。

不正ルールプロファイルについて

特定の条件を持つ不正ルールを作成し、ルールプロファイルに関連付けることができます。不正ルールを不正ルールプロファイルに関連付けた後、優先順位を付けることができます。

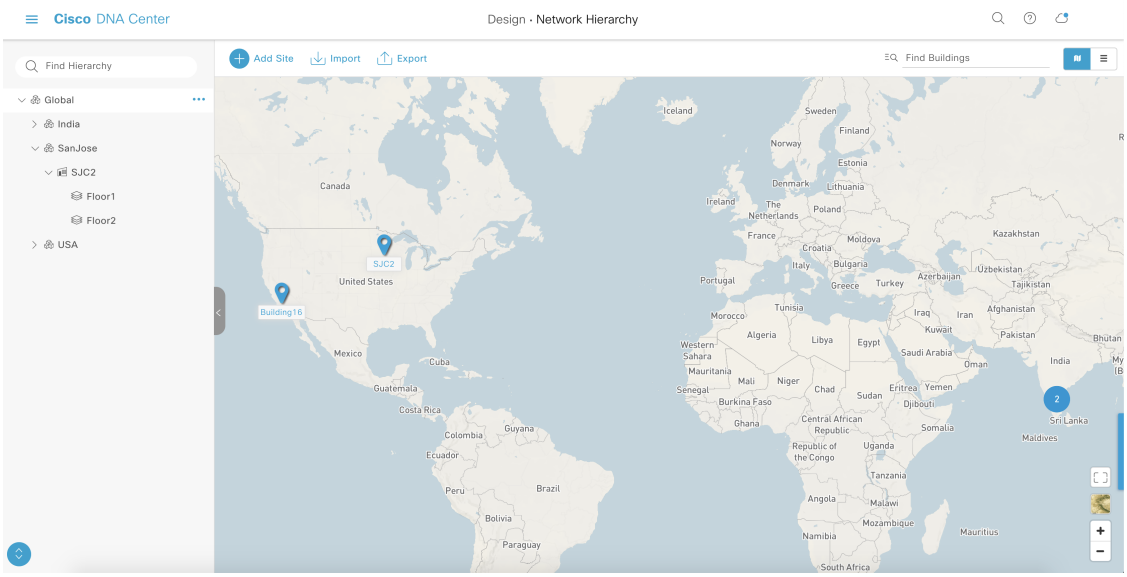
不正ルールプロファイルをサイトに割り当てると、そのサイトから報告される不正は、ルールプロファイルで定義されているルールに対して検証されます。

1 つのサイトに割り当てることができる不正ルールプロファイルは 1 つだけです。

サイトの継承により、特定のサイトのすべてのフロアは、エリア、サイト、またはビルディングレベルでマッピングされている不正ルールプロファイルを継承します。たとえば、次の図に示すように、Floor1 と Floor2 は、SanJose レベルでマッピングされている不正ルールプロファイルを継承します。

フロアにマッピングされた不正ルールプロファイルは、親サイトから継承された不正ルールよりも優先されます。たとえば、次の図に示すように、不正ルールプロファイル A が Floor1 に直接マッピングされている場合、不正ルールプロファイル A は親サイトの SJC2 に割り当てられているルールプロファイル B よりも優先されます。

図 *1* : ネットワーク階層



不正ルールプロファイルの編集

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Rules]**。

ステップ 2 [Profile Rule] タブをクリックします。

ステップ 3 [Rogue Rule Profiles] テーブルで、編集するプロファイル名をクリックします。

ステップ 4 表示される [Edit Rule Profile] ウィンドウで、必要な変更を行ってから [Save] をクリックします。

（注） ルールプロファイルを編集しても、以前に分類されたデータは変更されません。編集した内容は、変更後に処理される新しいデータにのみ適用されます。

ルールプロファイルを編集しても、以前に分類されたデータは変更されません。編集した内容は、変更後に処理される新しいデータにのみ適用されます。

不正ルールプロファイルの削除

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Rules]**。

ステップ 2 [Profile Rule] タブをクリックします。

ステップ 3 [Rogue Rules] テーブルで、削除するプロファイル名をクリックし、[Delete] をクリックします。

ステップ 4 表示される確認ダイアログボックスで [Delete] をクリックします。

不正ルールプロファイルの作成

特定の条件を持つルールを作成し、ルールプロファイルに関連付けることができます。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Workflows]** > **[Create a Rogue Rule Profile]**。

ステップ 2 [Create Rogue Rule Profile] ウィンドウで、[Get Started] をクリックします。

ステップ 3 [Profile Name] フィールドに、ルールプロファイルの一意の名前を入力します。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [Rule List] テーブルで、ルール名の横にあるチェックボックスをオンにし、[Next] をクリックします。

1 つのプロファイルに最大 5 つの不正ルールを追加できます。

ステップ 6 [Sort rules in order of priority] ウィンドウで、ルールを目的の優先順位（最も高い優先順位が一番上）にドラッグアンドドロップして、優先順位に基づいてルールを並べ替えます。

ステップ 7 [Next] をクリックして、不正ルールプロファイルを場所に関連付けます。

ステップ 8 このルールプロファイルを関連付けるサイトの横にあるチェックボックスをオンにし、[Next] をクリックします。

ルールプロファイルは、どのサイトに割り当てられていなくても存在できます。ルールプロファイルがサイトに割り当てられていない限り、ルールはチェックされません。

（注） ベンダールールとルールプロファイルが同じサイトにマッピングされている場合は、ベンダールールが優先されます。

ステップ 9 [Summary] ウィンドウで不正ルールプロファイルの構成を確認します。

ステップ 10 [Summary] ウィンドウで、[Back] ボタンをクリックすると、前のウィンドウで入力した値を変更できます。

ステップ 11 [Create Rule Profile] をクリックします。

ルールプロファイルが正常に作成されたことを示すメッセージが表示されます。

ステップ 12 すべての不正ルールおよびプロファイルを表示するには、[View all Rogue Rules and Profiles] をクリックします。

[Rogue Rule Profiles] タブに、作成されたすべての不正ルールとルールプロファイルが表示されます。

作成されたルールプロファイルは、メニューアイコン（☰）をクリックし、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Rules]** > **[Rogue Rule Profiles]**を選択して表示することもできます。

許可されたアクセスポイントリストの表示

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

[Rogue and aWIPS] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Allowed List] タブで、[Allowed Access Points List] をクリックします。

[Allowed Access Points List] テーブルには、許可されたすべてのアクセスポイントの [MAC Address] と [Last Changed] の詳細が表示されます。

ステップ 3 検索アイコンまたはフィルタ処理アイコンをクリックして、許可リストで特定のアクセス ポイントを見つけます。

ステップ 4 [Add Access Point List] をクリックして、不正 AP MAC アドレスを許可リストに追加します。詳細については、不正管理と aWIPS ワークフローの設定 （23 ページ）を参照してください。

ステップ 5 CSV ファイルに許可されたアクセスポイントをエクスポートするには、[Export] をクリックします。

ステップ 6 アクセスポイントを選択し、[Delete] をクリックして、アクセスポイントを許可リストから削除します。

許可されたベンダーリストについて

許可されたベンダーリスト機能では、特定のベンダーの AP が特定の脅威レベルをトリガーするかどうかを定義できます。許可されたベンダーのリストを作成し、これらのベンダーからの脅威が高脅威としてマークされないようにすることができます。潜在的な脅威または情報における脅威としてマークする必要があるかどうかを指定できます。1 つのワークフローで、最大 5 つのベンダーを許可リストに追加できます。

いずれかのレベルでマッピングされている許可されたベンダールールは、継承されたルールよりも優先されます。たとえば、許可されたベンダールール A がフロアレベルにマッピングされている場合、ベンダールール A は、サイト、エリア、またはビルディングレベルに存在する許可されたベンダールール B よりも優先されます。

ベンダールールリスト情報の表示

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

ステップ 2 [Allowed List] タブをクリックします。
[Allowed Vendor List] テーブルに、許可されたベンダーのリストと次の詳細が表示されます。各ベンダールールはエンティティとして表示されます。

- **ベンダー名（Vendor Name）**

- 一致基準
- **Threat Level**
- 関連付けられたサイト
- **Last Changed**

ベンダールールの編集

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

ステップ 2 [Allowed List] タブをクリックします。

ステップ 3 [Allowed Vendor List] テーブルで、編集するベンダー名をクリックします。

ステップ 4 [Edit Allowed Vendor List] ウィンドウで、必要に応じて次のパラメータを編集します。

- **Threat Level**
- 一致基準
- ベンダー名（**Vendor Name**）
- 関連付けられたサイト

ステップ 5 [Save] をクリックします。

ベンダールールの削除

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]**。

ステップ 2 [Allowed List] タブをクリックします。

ステップ 3 [Allowed Vendor List] テーブルで、削除するベンダー名ののチェックボックスをオンにし、[Delete] をクリックします。

次のメッセージが表示されます：`Deleting the selected allowed vendor(s) will impact all sites associated with it. There is 1 site associated with this allowed vendor(s).`

ステップ 4 [Delete] をクリックします。

許可されたベンダーのリストの作成

許可リストに登録するベンダーのリストを作成し、これらのベンダーからの脅威が高脅威としてマークされないようにすることができます。

一連のサイトに対する 1 つのワークフローに 5 つのベンダーを追加できます。

ステップ 1 メニューアイコン（☰）をクリックして、**[Workflows]** > **[Create Allowed Vendor List]**。

許可されたベンダーのリストは、メニューアイコンをクリックし、**[Assurance]** > **[Rogue and aWIPS]** > **[Allowed List]**を選択して作成することもできます。

ステップ 2 [Create Allowed Vendor List] ウィンドウで、[Let's Do it] をクリックします。

今後このウィンドウをスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

[Create Allowed Vendor List] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Selection Criteria] ドロップダウンリストから、ベンダー名の選択基準（[Exactly Matches] または [Contains]）を選択します。

ステップ 4 [Vendor Name] フィールドに、ベンダー名を入力します。

ベンダー名の照合では、大文字と小文字が区別されます。

ステップ 5 さらにベンダーを許可リストに追加するには、⊕ をクリックします。

1 つのワークフローで、最大 5 つのベンダーを許可リストに追加できます。

ステップ 6 [Site Selection] 画面で、許可されたベンダーリストを適用するサイトの横にあるチェックボックスをオンにします。

サイトの継承により、特定のサイトのすべてのフロアは、エリア、サイト、またはビルディングレベルでマッピングされているベンダールールを継承します。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Summary] ウィンドウ、許可されたベンダーとサイト選択の詳細を確認できます。

ステップ 9 [Done] をクリックします。

[Allowed Vendor List Created] ウィンドウが表示されます。

ステップ 10 別の許可されたベンダーリストを作成するには、[Create New Allowed Vendor List] をクリックし、手順 3 ～ 8 を繰り返し。

ステップ 11 作成したベンダーリストを表示するには、[View all allowed Lists] をクリックします。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。